

《巻頭言》

新年を迎えて

四国地方整備局長 足立敏之



あけましておめでとうございます。
平成二十二年の新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今年は西暦2010年。21世紀初頭のひとつの節目にあたる年であり
ます。

私が子供のころに夢を見るように思い描いた21世紀の世界は、
当時の漫画界の巨匠手塚治虫氏が描いた21世紀の街のように、高層ビル群の間をチューブ型高速道
路が弧を描き、エアクッション型の自家用車が行き交い、全自動化された住まいに豊かに生活する、
鉄腕アトムが象徴するような近未来の世界でした。

現時点では、まだそのような夢の世界の実現にまでは至っておりませんが、私たちが思い描いた2
1世紀の世界の実現のために、私たち自身が自ら行動し、これからの世代が安全で安心できる生活を
営み、豊かさや快適さを大いに享受できる、心躍る世界を一步一步つくり上げていかなければなら
ないと考えます。

昨年8月4日に、みなさんの努力のもと、四国の自立的発展に向けたグランドビジョン「四国圏
広域地方計画」が国土交通大臣決定されました。

このビジョンは、向こう10年間の四国を見据え、「癒しと輝きのくに」を目標テーマとして、「お
遍路文化」に代表される四国の「癒し」の魅力を内外に広く発信し、人を呼び寄せ、たゆまないイノ
ベーション活動などにより、この四国を活力ある「輝き」の地域としてつくりあげようというもので
す。

今年は、この目標達成に向けた活動元年ともいうべき年と考えますが、今年の干支「寅（虎）」の
行動力、活動力にあやかり、多方面の方々との幅広い協働の取り組みを進め、この目標実現に向けた
一步を着実に印していかなければならないと考えています。

このようなことから、私たち四国地方整備局としても「自立する四国」に向けて、地域づくりの礎
とも言うべき河川、道路、港湾空港等の社会資本整備を、引き続き着実に進めていく必要があります。

そのためには、地球環境を含めた環境問題への対応や、コストの縮減、工事の安全性の確保、施工
効率の向上、さらなる情報システムの活用等、事業実施上の課題を解決するための新技術の活用をさ
らに進めるとともに、官民共同研究制度等を用いた新技術開発にも力を注いでいく必要があると考
えます。

また、四国4県の大学を主体とした地域シンクタンクの連携強化の動きとも十分に連携を図り、相
互の技術情報交換等により、幅広く技術力の向上を図っていかなければならないと考えています。

こうした技術力向上をもって、私たち自身が四国の「夢の実現集団」として、一致団結して積極
的に行動を展開することを改めて誓いますとともに、本年が皆さんにとって明るく楽しく、そして健
康で充実した1年となりますことを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。